

令和5年度 第5回

今金町地域公共交通活性化協議会 (書面会議)

議案

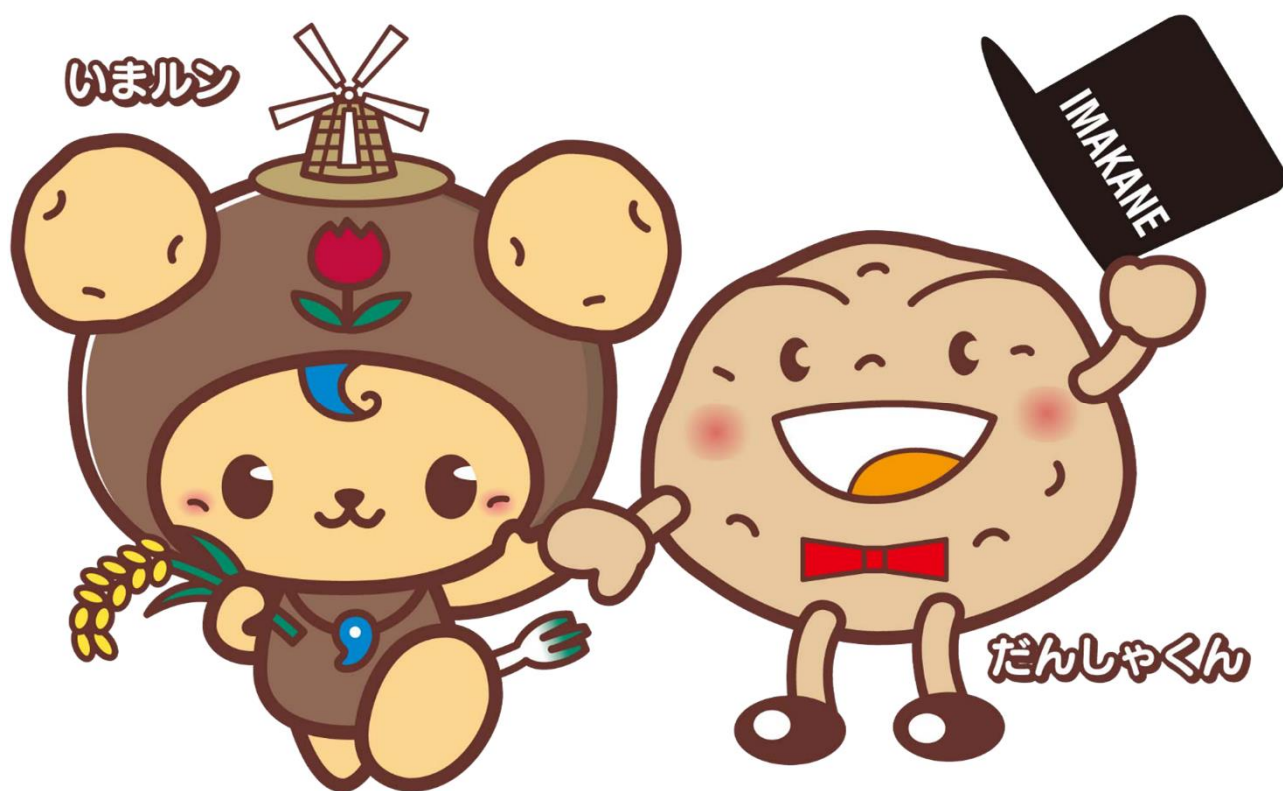
- 議案第1号 今金町地域公共交通計画の改訂について
【P1～17】
- 議案第2号 令和6年度地域内フィーダー系統確保維持計画の
変更について【P18～27】

議案第 1号

今金町地域公共交通計画の 改訂について

今金町地域公共交通計画

北海道今金町 マスコットキャラクター



I M A K A N E

令和5年1月 策定
令和6年3月 改訂

今金町地域公共交通活性化協議会
今金町

5. 将来像と基本目標

5-1 本町における地域公共交通の役割を踏まえた将来像

第2章から第5章で整理した、本計画の位置づけ及び上位・関連計画を踏まえた町内公共交通網の役割、重点課題等を踏まえ、本町における地域公共交通の将来像について、以下の通り設定します。

今金町地域公共交通計画の将来像

ふれあい今金「まちづくり」を実現する

安心して生活できる公共交通網の構築

～人のおかけや生活を支え、未来を拓く交通網の構築～

居住する町民がこれからも安心して本町に住み続けることができる公共交通網の確保に向け、「ふれあい今金「まちづくり」を実現する 安心して生活できる公共交通網の構築」を本町地域公共交通の将来像に設定します。

将来像の実現に向け、現在、町内で運行させている予約バス「ルンるん号」について、より利便性を高め、効率性にも配慮した見直しを行うとともに、町内を運行する函館バスの路線「瀬棚線」について、利用実態に応じた見直し等を行うなどの施策を展開し、町民をはじめ来訪者なども利用しやすい公共交通網の構築を目指すこととします。

5-2 重点課題を踏まえた基本目標

将来像の実現に向け、以下の5つの基本目標を設定します。

基本目標 1

持続可能な“ドア・トゥ・ドア”で快適な生活移動を確保

対応
重点課題

①②③④⑧
⑩

予約バス「ルンるん号」運行地域を対象に、現ルンるん号の利用状況を考慮しつつ、より町民の生活移動の実態に即した運行エリア及び運行時間帯、便数などの運行計画の見直しを実施します。

基本目標 2

生活移動の幅を広げる“地域公共交通”で安全な生活移動を確保

対応
重点課題

②③④⑤⑥
⑧⑩

予約バス「ルンるん号」未運行地域を対象に、現在運行している函館バス路線に加え、より地域公共交通を利用しやすい環境づくりに向け、現ルンるん号の利用実態を踏まえた、運行エリアの拡大を実施します。

基本目標 3

代替交通の導入により利便性の高い生活移動を確保

対応
重点課題

②③④⑦⑧
⑨⑬

函館バス路線で自由乗降区間を実施している道道936号線沿線地域を対象に、生活移動の継続的な確保を目的に、予約バス「ルンるん号」の運行エリア拡大を検討します。

基本目標 4

生活圏を考慮した“地域間幹線系統等の見直し”で将来にわたって広域圏の生活移動を確保

対応
重点課題

③④⑦⑧⑨
⑭

町民や今金町への地域公共交通を活用した移動を継続的に確保していくことを目的に、町内を運行する地域間幹線系統のサービス改善及び合理化を函館バスに対して提案します。

基本目標 5

地域公共交通をより身近に感じられる“利用促進策の展開”で地域公共交通を便利と感じる意識を醸成

対応
重点課題

①③④⑫

地域公共交通モードの見直し・導入と同時並行で、交通モードを“知って”“使ってもらう”機会の創出として、各種利用促進策を展開します。

1 計画策定にあたって

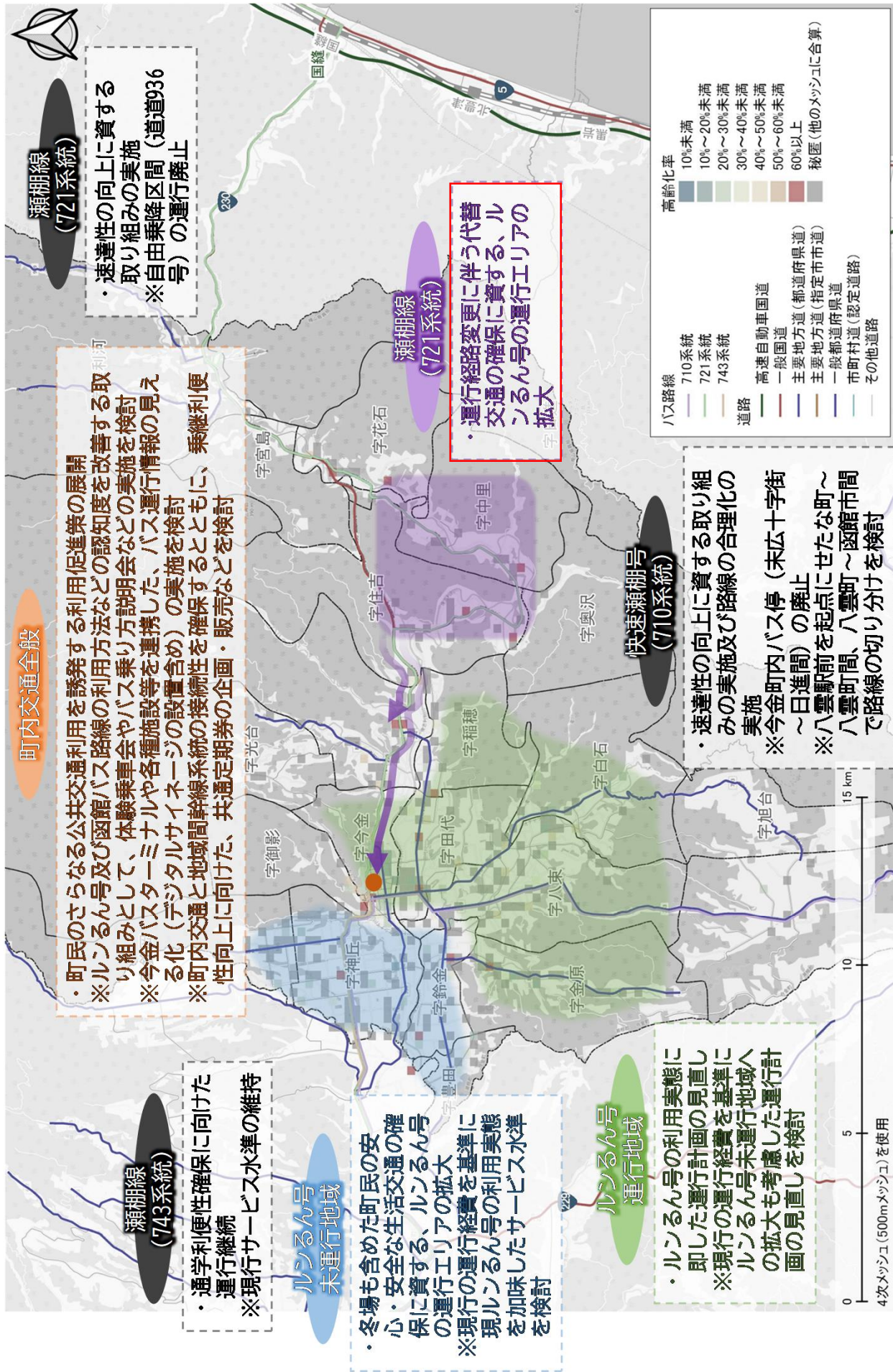
2 地域特性と上位・関連計画の整理

3 地域公共交通の運行状況等の整理

4 町民の地域公共交通に対するニーズ

5 将来像と基本目標

6 計画の進捗管理



- 1 計画策定にあたって
- 2 地域特性と上位・関連計画の整理
- 3 地域公共交通の運行状況等の整理
- 4 町民の地域公共交通に対するニーズ
- 5 将来像と基本目標
- 6 計画の進捗管理

図5-1 林野が田苗すんち将来像

5-3 町民の多様な移動を支える地域公共交通の役割

本町内を運行している地域公共交通は、町民の通勤・通学、買い物、通院、入浴等の私用など、多様な移動需要を支えており、再編後の本町内を運行する地域公共交通についても、変わらずその機能を発揮させることが必要です。

- 1 計画策定にあたって
- 2 地域特性と上位・関連計画の整理
- 3 地域公共交通の運行状況等の整理
- 4 町民の地域公共交通に対するニーズ
- 5 将来像と基本目標
- 6 計画の進捗管理

移動圏域	移動目的	現在の地域公共交通での確保状況	再編後の地域公共交通で予想される確保状況
町内	通勤・通学	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・瀬棚線（743系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・瀬棚線（743系統）
	買い物	予約バス「ルンるん号」	再編後予約バス「ルンるん号」
	通院	予約バス「ルンるん号」 患者バス	再編後予約バス「ルンるん号」
	私用	予約バス「ルンるん号」 患者バス	再編後予約バス「ルンるん号」
町外	通勤・通学	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・瀬棚線（743系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・瀬棚線（743系統）
	買い物	幹線交通 ・瀬棚線（721系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統）
	通院	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・快速瀬棚号（710系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・快速瀬棚号（710系統）
	私用	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・快速瀬棚号（710系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・快速瀬棚号（710系統）

図5-2 町内を運行する地域公共交通の役割

【令和4年度生活交通路線維持車両更新事業補助金で購入した車両】



基本目標 2 生活移動の幅を広げる“地域公共交通”で安全な生活移動を確保

事業 2 予約バス「ルンるん号」未運行地域への運行エリアの拡大

概要

現在、予約バス「ルンるん号」が運行していない「鈴岡・神丘の西部地区」において、事業 1 で行うエリア統合による運転手及び車両の活用や当該地区を運行する患者バスの交通資源を活用し、予約バス「ルンるん号」のエリア拡大を行います。

エリア拡大を行う予約バス「ルンるん号」を含め、全ルンるん号の路線については、本町から必要となる運行経費を捻出するとともに、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金等を活用し、運行維持確保を行います。

具体的な内容

① 運行対象エリアの検討

本町市街地で交通空白地域となっている「鈴岡・神丘の西部地区」を予約バス「ルンるん号」の新規運行エリアとします。

② 交通資源の活用

現在、「鈴岡・神丘の西部地区」には患者バスが 1 日 2 便、通院もしくは入浴を目的とした移動でのみ利用が可能な状況ですが、利用目的及び運行時間帯の拡大を目的として、患者バスの交通資源を活用し、予約バス「ルンるん号」としての運行に転換することの検討・調整を行います。

③ 運行サービス水準の検討

現在、運行している患者バス（鈴岡・神丘方面）の運行サービス水準を踏襲し、2 便/日の運行便数を確保します。なお、運行曜日についても、現行患者バス（鈴岡・神丘方面）の運行曜日を踏襲し、月曜日から金曜日までの週 5 日運行とします。

また、国庫補助金の活用も見据えているため、予約バス「ルンるん号」への転換の際には、有償での運行を想定しています。

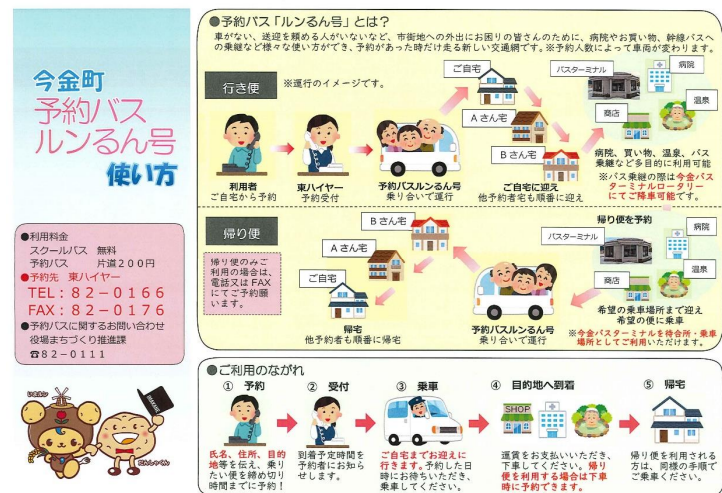


図 5-5 予約バス「ルンるん号」の使い方

実施主体

協議会、交通事業者、今金町

実施スケジュール

計画策定	計画推進				
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
計画策定	検討・調整		本格運行・継続的な見直し		

基本目標3 代替交通の導入により利便性の高い生活移動を確保

事業3 瀬棚線（721系統）における道道936号線運行区間の短絡化

概要

町内を運行する幹線交通である瀬棚線（721系統）について、さらなる速達性の向上を図るため、利用需要が限られている道道936号線運行区間の運行から、国道230号花石道路の運行に振替、本町から長万部町まで所要時間短縮を図ります。

具体的な内容

①所要時間短縮効果の整理

幹線交通「瀬棚線（721系統）」について、道道936号線運行区間の運行から、国道230号花石道路の運行に振り替えることで、既存の所要時間から「10分間」の短縮が図られることが期待されます。

また、運行キロとして「約7km/便」の削減に繋がることから、本町として瀬棚線（721系統）の運行維持確保に要している経費の圧縮に寄与することが期待されます。

②沿線住民への影響を最小化する代替交通の検討

既存の患者バスを活用し、これまでバス運行路線の沿線まで移動が必要であった現状から、自宅付近から利用でき、利便性を確保した移動手段の創設を検討します。

③関係自治体及び交通事業者との協議・調整

幹線交通「瀬棚線（721系統）」は、本町のほか、せたな町、長万部町内も運行しており、運行計画の変更には、関係する2自治体との協議・調整が必要であることから、必要な協議・調整を行っていきます。

加えて、瀬棚線（721系統）は、函館バス株式会社が運行する民間バス路線であることから、瀬棚線（721系統）の運行ルート変更に伴う影響（利用者数変動や運行経費変動等）についても協議・調整を行います。

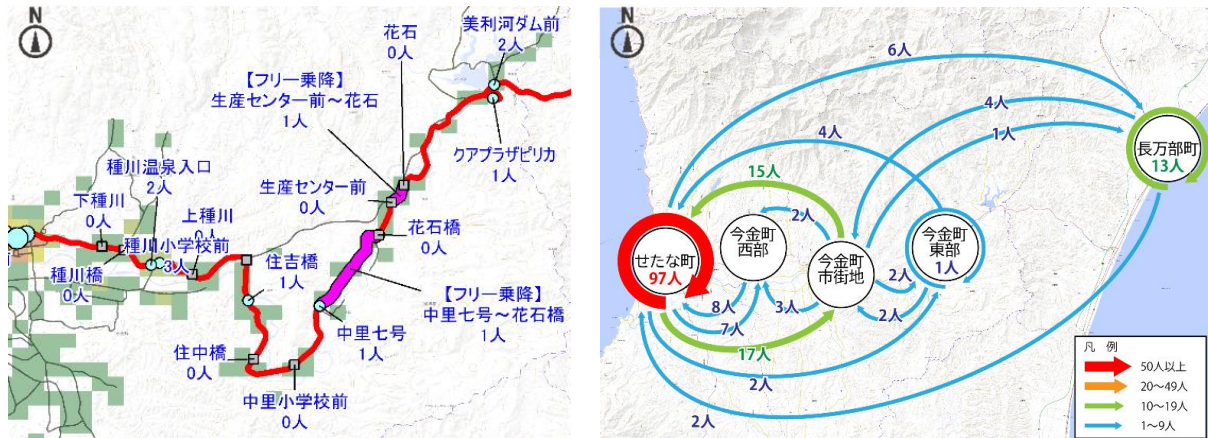


図5-6 (左) 見直し対象区間及び(右) 自治体ODの整理

実施主体

協議会、交通事業者、関係自治体、今金町

実施スケジュール

計画策定	計画推進				
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定 ●		協議・調整が完了し次第、運行内容を見直し			

1 計画策定にあたって

2 地域特性と上位・関連計画の整理

3 地域公共交通の運行状況等の整理

4 町民の地域公共交通に対するニーズ

5 将来像と基本目標

6 計画の進捗管理

基本目標3 代替交通の導入により利便性の高い生活移動を確保

事業4 道道936号線沿線における代替交通の導入

概要

幹線交通「瀬棚線（721系統）」の国道230号花石道路の運行に伴い、交通空白地域となる道道936号線沿線地区において、現行の患者輸送バスから予約バス「ルンるん号」としての運行に転換することを検討・調整します。

エリア拡大を行う予約バス「ルンるん号」を含め、全ルンるん号の路線については、本町から必要となる運行経費を捻出するとともに、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金等を活用し、運行維持確保を行います。

具体的な内容

①運行対象エリアの検討

幹線交通「瀬棚線（721系統）」の国道230号花石道路の運行に伴い、交通空白地域となる道道936号線沿線地区において、予約バス「ルンるん号」の新規運行エリアとします。

②交通資源の活用

患者バスの交通資源を活用し、予約バス「ルンるん号」としての運行に転換することの検討・調整を行います。

③運行サービス水準の検討

現在、運行している患者バス（美利河・花石・中里方面）の運行サービス水準を踏襲し、2便/日の運行便数を確保します。なお、運行曜日についても、現行患者バス（美利河・花石・中里方面）の運行曜日を踏襲し、火曜日から金曜日までの週4日運行とします。

また、国庫補助金の活用も見据えているため、予約バス「ルンるん号」への転換の際には、有償での運行を想定しています。

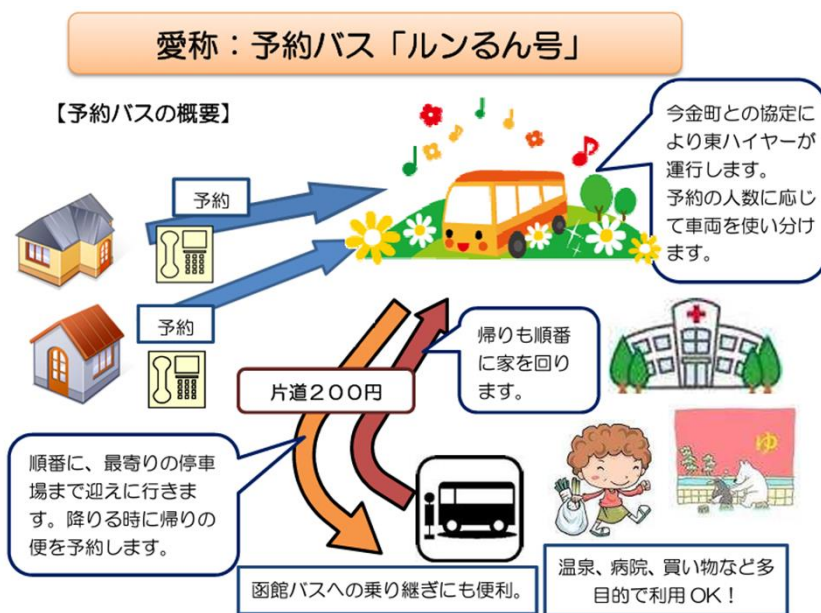


図5-7 予約バス「ルンるん号」の運行イメージ

実施主体

協議会、交通事業者、今金町

実施スケジュール

計画策定	計画推進					
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定 ●	検討・調整			本格運行・継続的な見直し		

1 計画策定にあたって

2 地域特性と上位・関連計画の整理

3 地域公共交通の運行状況等の整理

4 町民の地域公共交通に対するニーズ

5 将来像と基本目標

6 計画の進捗管理

基本目標5 地域公共交通をより身近に感じられる“利用促進策の展開”で地域公共交通を便利と感じる意識を醸成

事業6 交通事業者と連携したバスを身近に感じてもらう取組の実施

概要

地域公共交通を利用した“おでかけ”を行う習慣を身につけることやバスを利用してもらうきっかけづくりとして、交通事業者と連携し、地域公共交通を利用するハードルが下がるような取組を実施します。

具体的な内容

①交通事業者と連携した利用促進キャンペーンの実施

地域公共交通を利用したことがない町民が、地域公共交通に乗って“おでかけ”を行うきっかけ作りや普段、地域公共交通を利用している町民も含め、少しでも地域公共交通を安価に利用できるような取組を実施します。

令和4年 夏期 バス冒険キング!!
2022年7月26日(火)から8月21日(日)まで

ICAS nimocaを使って
夏休み期間中に函館バスに乗ると
50%分のポイントが返ってくる!

※交通系ICカード「ICAS nimoca(記名式)」をご利用の場合が対象となります

【バス冒険キング】事業は、函館バス株式会社が行っている市町にお住まいの全ての小学生・中学生が対象で、函館バスご利用時に「ICAS nimoca / イカすニモカ」を乗付全ての「nimocaカード」にてお支払いいただいた金額のうち、50%にあたる分が後日ポイントバックされる事業です。

函館バスで運行する通常の路線バスが対象となっており、都市間高速バス、特別臨時バス、函館市電、その他交通事業者で運行する交通機関等は対象外となります。

乗車のご利用の場合は、「乗車割引適用後の料金」を基準とし、集計いたします。函館市電との乗車の場合は、函館バス利用のみが対象となります。

【バス冒険キング】をご利用いただく前に、事前に交通系ICカード「ICAS nimoca / イカすニモカ」のご購入が必要となります。小学生は「記名式の利用ICAS nimoca」を、中学生は「記名式のお子用ICAS nimoca」を必ずお申し込み・お取寄せください。

原則として、1枚のカードにつきおひとり様分のお支払いをされた場合が有効です。複数人でのご購入の場合は、【バス冒険キング】の利用対象外となります。

ご利用日が各種定期券の有効期限内の場合は、【バス冒険キング】の利用対象外となります。

使用例 期間中に函館バスの路線にて240円区間をご利用いただいた場合

1	バスを降りるときに乗車料金をICAS nimocaでお支払い下さい	小学生	120円	中学生	240円
2	お支払いいただいた料金のうち50%にあたる分ポイントがカードに付与されます(※)	小学生	60ポイント	中学生	120ポイント
3	貯まったポイントは、「ポイント交換」をしていただくバスのお支払いやお買い物の際に電子マネーとして使うことができます(1ポイント=1円)				

(※) 冒険キング期間終了後、1カ月を目処に、期間中の利用金額を基に、金額に応じてポイントをお持ちの「ICAS nimoca」に付与いたします。詳細は、期日でのポイント付与等につきましては各駅の窓口にてご確認ください。

※当企画の開催に付いて、次の団体の協力をいただいております(敬称略、順不同)
函館市/函館市教育委員会/北斗市/北斗市教育委員会/七飯町/七飯町教育委員会/亀田町/亀田町教育委員会/森町/森町教育委員会/八雲町/八雲町教育委員会/厚沢町/厚沢町教育委員会/江差町/江差町教育委員会/乙訓町/乙訓町教育委員会/上/乙訓町教育委員会/水内町/水内町教育委員会/知内町/知内町教育委員会/唯路町/唯路町教育委員会/松前町/松前町教育委員会/長万町/長万町教育委員会/今金町/今金町教育委員会/社々町/社々町教育委員会

企画・運営/函館バス株式会社 バス事業部営業課 ☎0138-51-3960(平日9:00-17:30)

利用可能範囲

- 函館バスが運行している、渡島管内・樺山管内(※奥町を除く)の市町を走るすべての路線バスにてお使いいただくことができます。
- 都市間高速バス、特別臨時バス、函館市電等の他の公共交通機関につきましては、当企画の利用対象外となりますのでご注意ください。
- お住まいの市町以外へお出かけされる場合は、各市町・教育委員会・学校の規約等にご確認ください。
- 例：小学生は3人以上のグループで利用/保護者の方と利用…など

バスに乗るとき

- バスの前面にある行き先を確認しよう!
- バスに乗る前に入口を確認しよう!
- 入口の機械にカードをかざして乗ろう!

バスから降りるとき

- 降りるバス停が間えたら降車ボタンを押して降りる準備をしよう!
- バスが停まったら出口に向かおう!
- 出口の機械にカードをかざして降りよう!

お出かけ先にお知らせすることがあったら、函館バスの中に届け込んでください!

函館バス株式会社 ホームページ <http://www.hakobus.co.jp/>

「バスはいつ乗るの?」「どこを走っているんだろう?」乗車中の函館バスは現在、乗車中の乗客、乗客の乗車券をお持ちのスマートフォン・携帯電話から「乗客ナビ」で確認することができます。

出典：函館バス

図5-8 交通事業者が企画、関係自治体と協力・後援を行った事例

②町内放送を活用した予約バス「ルンるん号」運行に関する周知の実施

町から各戸への町のイベント情報の周知で活用している町内放送において、予約バス「ルンるん号」の運行状況に関する内容を放送し、予約バス「ルンるん号」の運行を知ってもらう取組を実施します。

実施主体

協議会、交通事業者、町民、関係自治体、今金町

実施スケジュール

計画策定	計画推進				
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定	適宜実施				

基本目標5 地域公共交通をより身近に感じられる“利用促進策の展開”で地域公共交通を便利と感じる意識を醸成

事業7 地域公共交通の運行状況がデジタル媒体からも確認できる見える化の実施

概要

町内を運行する地域公共交通のうち、本町が独自で運行させている予約バス「ルンるん号」について、オンライン上で予約受付ができ、予約バス「ルンるん号」の接近情報をデジタル媒体でお知らせするシステムを導入することで、予約バス「ルンるん号」の運行状況を見える化します。

具体的な内容

① 函館バス路線における運行状況の見える化の実施検討

函館バス株式会社では、路線バスが“いつ”“どこ”を運行しているのかリアルタイムに情報発信するバスロケーションシステムを導入しており、パソコンやスマートフォンなどから運行情報を入手できるが、高齢者でも容易に運行情報を確認できるように、町内において待合施設を保有しているバス停（交通結節点）にバスロケーションシステムの表示板の設置を検討します。

なお、バスロケーションシステムの導入にあたっては、函館バス株式会社が保有するシステムを有効活用できるよう、函館バス株式会社と継続的な協議を行っています。

町内においては、待合機能を保有しているバス停（交通結節点）を中心に設置を検討します。



出典：函館バス株式会社

図5-9 函館バス株式会社バスロケーションシステム設置事例①



出典：函館バス株式会社

図5-10 函館バス株式会社バスロケーションシステム設置事例②

実施主体

協議会、交通事業者、システム事業者、今金町

実施スケジュール

計画策定	計画推進				
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定 ●		システム事業者等との調整が完了し次第、導入			

1 計画策定にあたって

2 地域特性と上位・関連計画の整理

3 地域公共交通の運行状況等の整理

4 町民の地域公共交通に対するニーズ

5 将来像と基本目標

6 計画の進捗管理

基本目標5 地域公共交通をより身近に感じられる“利用促進策の展開”で地域公共交通を便利と感じる意識を醸成

事業8 交通事業者と連携した利用しやすい運賃助成の取組の実施

概要

町内交通から幹線交通への乗継など、より町民が地域公共交通を利用しやすい環境整備に向け、町内交通と幹線交通で共通で利用できる定期券の販売などを行っていきます。

具体的な内容

①過年度に実施した助成事業のスキームを参考にした取組の検討

今金町では、過年度に65歳以上の町民を対象に2,000円(実質2,200円分)のバスカードの半額(1,000円)助成を行っていました。

※1年度につき、最大5,000円分を助成

現在は、バスカード自体は廃止となりましたが、函館バス株式会社でICカードを導入していることから、町内の高齢者の方のICカードの普及率や利用状況などを踏まえながら、新たな運賃助成制度を検討します。

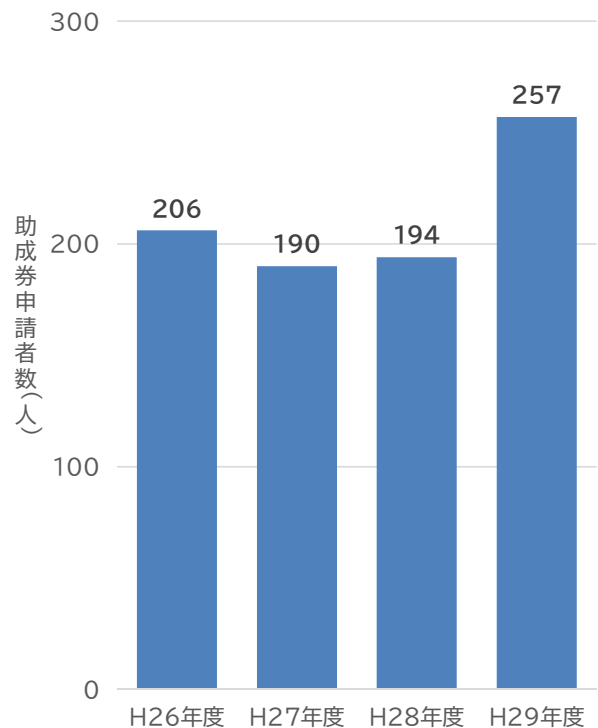


図5-11 過年度に実施した助成事業の概要

実施主体

協議会、交通事業者、関係機関、今金町

実施スケジュール

計画策定	計画推進				
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定			適宜実施		
	→				

表 6-2 計画の達成状況を評価する指標（基本目標 2 の内容）

基本目標 2 生活移動の幅を広げる“地域公共交通”で安全な生活移動を確保

評価指標	現状値・目標値・計測方法					
	現状値 令和5年度	現状値 令和5年度	現状値 令和6年度	現状値 令和7年度	現状値 令和8年度	現状値 令和9年度
再編後予約バス「ルンるん号」運行路線数	4路線	4路線	6路線	6路線	6路線	6路線
	<p>令和4年度に路線統合を検討し、途中経過として現行の予約バス「ルンるん号」は4路線となり、再編を実施する令和6年度までは、運行路線数4路線を維持するため、再編前の直近の年次である令和5年度を現状値とします。</p> <p>令和6年度以降、再編後の予約バス「ルンるん号」は、「まちなか地区」、「八束・白石地区」、「金原・豊田地区」、「田代・稲穂地区」、「鈴岡・神丘地区」、「美利河～光台地区」の全6路線となります。</p>					
再編後予約バス「ルンるん号」運行に係る運転手数及び車両台数の確保	現状値 令和5年度 4人/日 4台/日	現状値 令和5年度 4人/日 4台/日	現状値 令和6年度 6人/日 6台/日	現状値 令和7年度 6人/日 6台/日	現状値 令和8年度 6人/日 6台/日	現状値 令和9年度 6人/日 6台/日
	<p>現行の予約バス「ルンるん号」と同様に、1路線を運行するのにあたって、1人/日・1台/日のリソースを活用するため、上記指標「再編後予約バス「ルンるん号」運行路線数」と連動し、現状値を令和5年度、再編を実施する令和6年度以降の目標値を、6人/日・6台/日とします。</p>					
再編後予約バス「ルンるん号」利用者数	現状値 令和4年度 3,450人/年	現状値 令和5年度 3,450人/年	現状値 令和6年度 3,831人/年	現状値 令和7年度 3,831人/年	現状値 令和8年度 3,831人/年	現状値 令和9年度 3,831人/年
	<p>予約バス「ルンるん号」の利用者数は、現行で運行している4地区は現状維持（3,450人/年）を想定し、新たに運行拡大を予定している2地区については、転換前の患者バスの利用実績に基づき、381人/年とし、全体で3,831人/年としています。</p>					
再編後予約バス「ルンるん号」の収支額	現状値 令和4年度 10,984千円/年	現状値 令和5年度 10,984千円/年	現状値 令和6年度 12,338千円/年	現状値 令和7年度 12,338千円/年	現状値 令和8年度 12,338千円/年	現状値 令和9年度 12,338千円/年
	<p>収入額は、上記指標「再編後予約バス「ルンるん号」利用者数」と連動し、支出額は、これまでの予約バス「ルンるん号」及び、再編後新たに運行する2路線分の経費を想定し、収支額を12,338千円/年とします。</p>					
予約バス「ルンるん号」の運行カバー圏割合	現状値 令和4年度 88.7%	現状値 令和5年度 88.7%	現状値 令和6年度 95.7%	現状値 令和7年度 95.7%	現状値 令和8年度 95.7%	現状値 令和9年度 95.7%
	<p>予約バス「ルンるん号」の再編により、交通空白地域となっていた地区が公共交通が利用できる地域となるため、対象人口分のカバー圏割合の上昇が見込まれます。</p> <p>※現状値を国勢調査の調査年度としているため、目標値についても、次回の国勢調査年度である令和7年度としています</p>					

- 1 計画策定にあたって
- 2 地域特性と上位・関連計画の整理
- 3 地域公共交通の運行状況等の整理
- 4 町民の地域公共交通に対するニーズ
- 5 将来像と基本目標
- 6 計画の進捗管理

基本目標3 代替交通の導入により利便性の高い生活移動を確保						
評価指標	現状値・目標値・計測方法					
瀬棚線（721系統）の利用者数	現状値					
	令和3年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	99,825人/年	99,825人/年	99,825人/年	99,825人/年	99,825人/年	99,825人/年
瀬棚線（721系統）は、沿線自治体と連携しながら、路線運行の維持に努める必要があるため、現状値から大幅な変化が生じない目標値とします。						

1 計画策定にあたって

2 地域特性と上位・関連計画の整理

3 地域公共交通の運行状況等の整理

4 町民の地域公共交通に対するニーズ

5 将来像と基本目標

6 計画の進捗管理

表6-4 計画の達成状況を評価する指標（基本目標4の内容）

基本目標4 生活圏を考慮した“地域間幹線系統の見直し”で将来にわたって広域圏の生活移動を確保						
評価指標	現状値・目標値・計測方法					
瀬棚線（721系統）の利用者数	【再掲・基本目標3に同じ】					
快速瀬棚号の町内利用者数	現状値					
	令和3年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	4人/日	6人/日	6人/日	6人/日	6人/日	6人/日
快速瀬棚号の利用者のうち、町民は主に通学、通院で利用している状況です。今後の町外の高校に通学する方や免許返納等により、町内の利用者数は増加することが想定されるため、6人/日としています。						
「今金」バス停での乗換人数	現状値					
	令和3年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	9人/日	19人/日	19人/日	19人/日	19人/日	19人/日
「今金」バス停で他の公共交通に乗り換えている利用者は、令和3年度の乗降調査で9人/日となっています。今後、事業5で示した内容を推進していくため、「自動車による送迎」で「今金」バス停まで移動している方が、他の公共交通に転換することを想定し、19人/日としています。						

表6-5 計画の達成状況を評価する指標（基本目標5の内容）

基本目標5 地域公共交通をより身近に感じられる“利用促進策の展開”で地域公共交通を便利と感じる意識を醸成						
評価指標	現状値・目標値・計測方法					
地域公共交通の情報発信等の開催数	現状値					
	令和3年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	0回/年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年
令和3年度の実績で0回/年となっているため、計画策定後は、公共交通をより身近に感じてもらうことを目的として、1回/年としています。						
デジタル媒体を活用した見える化サービス導入件数	現状値					
	令和3年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	0件	1件	1件	1件	1件	1件
現状、デジタル媒体を活用した見える化サービス導入件数は0件となっていますが、令和5年度以降、システム事業者等との調整が完了し次第、町内交通結节点での導入を想定しています。						
瀬棚線（721系統）の利用者数	【再掲・基本目標3に同じ】					
快速瀬棚号の町内利用者数	【再掲・基本目標4に同じ】					

今金町地域公共交通 計画改訂に係る新旧対照表（任意様式）

（傍線部は改正部分）

改訂後	改訂前
<p>今金町地域公共交通 計画の一部を次のように改訂する。</p> <p>P 3 6</p> <p>5 . 将来像と基本 目標</p> <p>5 - 2 重点課題を踏まえた基本 目標</p> <p>基本 目標 3 <u>代替交通 の導入により利便 性の高い生活移動を確保</u></p> <p>函館バス路線で自 由乗降期間を実施している道道9 3 6号線沿線地域を対象に、生活移動の継続的な確保を目的に、<u>予約バス「ルンるん号」の運行エリア拡大を検討</u>します。</p> <p>P 3 7</p> <p>図5 - 1 本 町が目指すべき将来像 中</p> <p>瀬棚線（7 2 1系統） 紫着 色箇所</p> <p><u>・運行経路変更に伴う代替交通 の確保に資する、ルンるん号の運行エリアの拡大</u></p> <p>P 3 8</p> <p>図5 - 2 町内を運行する地域公共交通 の役割 中</p> <p>再 編後の地域公共交通 で予想される確保状況 移動圏域「町内」</p> <p>移動目的「通院」:再 編後予約バス「ルンるん号」<u> </u></p> <p>移動目的「私用」:再 編後予約バス「ルンるん号」<u> </u></p> <p>P 4 0</p> <p>具体的な内容</p> <p>運行サービス水準の検討</p> <p><u>現在、運行している患者バス（鈴岡・神丘方面）の運行サービス水準を踏襲し、2便 /日の運行便 数を確保します。なお、運行曜日についても、現行患者バス（鈴岡・神丘方面）の運行曜日を踏襲し、月曜日から金曜日までの週5日運行とします。</u></p> <p>図5 - 5 <u>予約バス「ルンるん号」の使い方</u></p>	<p>今金町地域公共交通 計画の一部を次のように改訂する。</p> <p>P 3 6</p> <p>5 . 将来像と基本 目標</p> <p>5 - 2 重点課題を踏まえた基本 目標</p> <p>基本 目標 3 <u>地域内資源である“ハイヤーの活用”で利便 性の高い生活移動を確保</u></p> <p>函館バス路線で自 由乗降期間を実施している道道9 3 6号線沿線地域を対象に、生活移動の継続的な確保を目的に、<u>ハイヤー料金の低廉化措置を検討</u>します。</p> <p>P 3 7</p> <p>図5 - 1 本 町が目指すべき将来像 中</p> <p>瀬棚線（7 2 1系統） 紫着 色箇所</p> <p><u>・自由乗降区間廃止に伴うタクシー料金の低廉化措置の導入</u></p> <p><u>運行区間（種川止まり o市 街地まで運行）については、全国的な事例を加味して検討</u></p> <p>P 3 8</p> <p>図5 - 2 町内を運行する地域公共交通 の役割 中</p> <p>再 編後の地域公共交通 で予想される確保状況 移動圏域「町内」</p> <p>移動目的「通院」:再 編後予約バス「ルンるん号」<u>・患者バス</u></p> <p>移動目的「私用」:再 編後予約バス「ルンるん号」<u>・患者バス</u></p> <p>P 4 0</p> <p>具体的な内容</p> <p>運行サービス水準の検討</p> <p><u>現在、運行している予約バス「ルンるん号」の運行サービス水準を踏襲し、5便 /日の運行便 数を確保します。なお、運行曜日についても、現在ルンるん号の運行曜日を踏襲し、月曜日から土曜日までの週6日運行とします。</u></p> <p>図5 - 5 <u>予約バス「ルンるん号」(八 束・白石方面)の運行便 数</u></p>

P 4 1

基本 目標 3 代替交通 の導入により利便性の高い生活移動を確保

具体的な内容

所要時間短縮の効果

幹線交通「瀬棚線(721系統)」について、道道936号線運行区間の運行から、国道230号花石道路の運行に振り替えることで、既存の所要時間から「10分間」の短縮が図られることが期待されます。

また、運行キロとして「約7km便」の削減に繋がることから、本町として瀬棚線(721系統)の運行維持確保に要している経費の圧縮に寄与することが期待されます。

沿線住民への影響を最小化する代替交通の検討

既存の患者バスを活用し、これまでバス運行路線の沿線まで移動が必要であった現状から自宅付近から利用でき、利便性を確保した移動手段の創設を検討します。

P 4 2

基本 目標 3 代替交通 の導入により利便性の高い生活移動を確保

事業 4 道道936号線沿線における代替交通 の導入

概要、具体的な内容、実施スケジュール(代替交通の導入について)

図5-7 予約バス「ルンるん号」の運行イメージ

P 4 4

図5-8 交通事業者が企画、関係自治体と協力・後援を行った事例

P 4 5

図5-9 函館バス株式会社バスロケーションシステム設置事例

図5-10 函館バス株式会社バスロケーションシステム設置事例

P 4 6

図5-11 過年度に実施した助成事業の概要

P 4 1

基本 目標 3 地域内資源である“ハイヤーの活用”で利便性の高い生活移動を確保

具体的な内容

所要時間短縮の効果

幹線交通「瀬棚線(721系統)」について、道道936号線運行区間の運行から、国道230号花石道路の運行に振り替えることで、既存の所要時間から「7分間」の短縮が図られることが期待されます。

また、運行キロとして「約6km便」の削減に繋がることから、本町として瀬棚線(721系統)の運行維持確保に要している経費の圧縮に寄与することが期待されます。

沿線住民への影響を最小化する代替交通の検討

事業4で整理する「タクシー運賃助成制度」や既存の患者バスを活用し、これまでバス運行路線の沿線まで移動が必要であった現状から自宅付近から利用でき、利便性を確保した移動手段の創設を検討します。

P 4 2

基本 目標 3 地域内資源である“ハイヤーの活用”で利便性の高い生活移動を確保

事業 4 道道936号線沿線におけるタクシー助成制度の新設

概要、具体的な内容、実施スケジュール(タクシー助成制度の新設について)

図5-7 タクシー運賃低廉化措置の概要

図5-8 山形県南陽市沖郷地区で実施しているタクシー運賃低廉化措置の事例

P 4 4

図5-9 交通事業者が企画、関係自治体と協力・後援を行った事例

P 4 5

図5-11 函館バス株式会社バスロケーションシステム設置事例

図5-12 函館バス株式会社バスロケーションシステム設置事例

P 4 6

図5-13 過年度に実施した助成事業の概要

表 6 - 2 計画の達成状況を評価する指標（基本目標2の内容）中

評価指標再編後予約バス「ルンるん号」運行路線数

現状値・目標値・計測方法

令和6年度～令和9年度：6路線

令和6年度以降、再編後の予約バス「ルンるん号」は、「まちなか地区」、「八束・白石地区」、「金原・豊田地区」、「田代・稲穂地区」、「鈴岡・神丘地区」、「美利河～光台地区」の全6路線となります。

評価指標再編後予約バス「ルンるん号」運行に係る運転手数及び車両台数の確保

現状値・目標値・計測方法

令和6年度～令和9年度：6人/日・6台/日

現行の予約バス「ルンるん号」と同様に、1路線を運行するのにあたって、1人/日・1台/日のリソースを活用するため、上記指標再編後予約バス「ルンるん号」運行経路数」と連動し、現状値を令和5年度、再編を実施する令和6年度以降の目標値を、6人/日・6台/日とします。

評価指標再編後予約バス「ルンるん号」利用者数

現状値・目標値・計測方法

令和4～5年度：3,450人

令和6～9年度：3,831人

予約バス「ルンるん号」の利用者数は、現行で運行している4地区は現状維持（3,450人/年）を想定し、新たに運行拡大を予定している2地区については、転換前の患者バスの利用実績に基づき、381人/年とし、全体3,831人/年としています。

評価指標再編後予約バス「ルンるん号」の収支額

現状値・目標値・計測方法

収入額は、上記指標再編後予約バス「ルンるん号」利用者数」と連動し、支出額は、これまでの予約バス「ルンるん号」及び、再編時新たに運行する2路線分の経費を想定し、収支額を12,338千円/年とします。

表 6 - 2 計画の達成状況を評価する指標（基本目標2の内容）中

評価指標再編後予約バス「ルンるん号」運行路線数

現状値・目標値・計測方法

令和6年度～令和9年度：5路線

令和6年度以降、再編後の予約バス「ルンるん号」は、「まちなか地区」、「八束・白石地区」、「金原・豊田地区」、「田代・稲穂地区」、「鈴岡・神丘地区」の全5路線となります。

評価指標再編後予約バス「ルンるん号」運行に係る運転手数及び車両台数の確保

現状値・目標値・計測方法

令和6年度～令和9年度：5人/日・5台/日

現行の予約バス「ルンるん号」と同様に、1路線を運行するのにあたって、1人/日・1台/日のリソースを活用するため、上記指標再編後予約バス「ルンるん号」運行経路数」と連動し、現状値を令和5年度、再編を実施する令和6年度以降の目標値を、5人/日・5台/日とします。

評価指標再編後予約バス「ルンるん号」利用者数

現状値・目標値・計測方法

令和4～5年度：3,796人

令和6～9年度：4,457人

予約バス「ルンるん号」の利用者数は、現行で運行している4地区は現状維持（3,796人/年）を想定し、新たに運行拡大を予定している2地区については、4地区の人口に対する利用率に基づき、661人/年とし、全体4,457人/年としています。

評価指標再編後予約バス「ルンるん号」の収支額

現状値・目標値・計測方法

収入額は、上記指標再編後予約バス「ルンるん号」利用者数」と連動し、支出額は、これまでの予約バス「ルンるん号」の経費及び再編時に活用する患者バスの交通資源分の経費を想定し、収支額を12,338千円/年とします。

評価指標-予約バス「ルンるん号」の運行カバー圏割合

現状値・目標値・計測方法

予約バス「ルンるん号」の再編により、交通空白地域となっていた地区が公共交通が利用できる地域となるため、対象人口分のカバー圏割合の上昇が見込まれます。

P 4 9

表 6 - 3 計画の達成状況を評価する指標（基本目標 3 の内容） 中

基本目標 3 代替交通の導入により利便性の高い生活移動を確保

評価指標-タクシー助成制度の実利用者数を削減

評価指標-予約バス「ルンるん号」の運行カバー圏割合

現状値・目標値・計測方法

予約バス「ルンるん号」の再編により、交通空白地域となっていた「鈴岡」「神丘」が公共交通を利用できる地域となるため、対象人口分のカバー圏割合の上昇が見込まれます。

P 4 9

表 6 - 3 計画の達成状況を評価する指標（基本目標 3 の内容） 中

基本目標 3 地域内資源である“ハイヤーの活用”で利便性の高い生活移動を確保

評価指標-タクシー助成制度の実利用者数を減

議案第 2号

令和 6年フィーダー系統確保維持 計画の変更について

令和6年3月 日

(名称) 今金町地域公共交通活性化協議会

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

今金町の人口は5,072人(令和2年国勢調査)で内7歳以上の高齢者は、既に住民の4.2人に1人にあたる1,200人規模(2020年)に達し、今後さらに増えていくことが予想されており、これまでの自家用車中心の地域交通のままでは、今後日常生活において不便になる世帯が増加することが懸念される。

本町の公共交通機関として、旧国鉄廃止後の代替バスである地域間幹線系統「瀬棚線」が国道230号線で運行されているが、国道から外れた町の南部地区(八束・白石地区、金原・豊田地区、日進地区、田代・稲穂地区)についてはスクールバスと患者輸送(福祉)バスが運行されているのみであり、地域間幹線系統への接続や市街地への外出が困難な交通空白地域である。

このため、自動車での移動が困難な高齢者等の生活交通路線の確保と、交通空白地域の解消を目的として、平成26年10月から八束・白石地区、平成27年10月から金原・豊田地区及び日進地区、平成28年10月から田代・稲穂地区、令和6年4月から上地区(美利河～光台)及び西部地区(神丘・鈴岡)において、スクールバス一般混乗の導入及び地域間幹線系統に接続するフィーダー系統(デマンドバス)の運行を開始した。今後、このデマンドバスを持続的な公共交通として地域に定着させることが必要である。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

運行地区全体の利用者数 3,650人

一運行当たりの輸送人数 3.0人

前年度と比較し、利用者数及び一運行当たり人数が減少したことから、前年度同等の数値を目標として設定する。

【参考数値】 日進地区及び田代・稲穂地区は補助対象外系統

	R2.10月～R3.9月		R3.10月～R4.9月	
	利用者数	一運行当たり	利用者数	一運行当たり
八束・白石地区	2,860人	4.6人	2,640人	4.2人
金原・豊田地区	320人	1.2人	374人	1.2人
日進地区	4人	1人	5人	1人
田代・稲穂地区	437人	1.3人	347人	1.3人
計	3,621人	3.0人	3,366人	2.8人

○患者バス利用者数 381人(令和3年度)

(今金町地域公共交通計画 P48 参照)

(2) 事業の効果

幹線バス(長万部～せ たな間)へのアクセスができ、利用促進が図られる。

各地区と市街地間における移動手段が充実する。

各地区と病院や商業施設等が結ばれることで日常生活に必要な社会基盤が維持される。

地区内外問わず高齢者の社会参加が促進される。

行政サービスの向上が図られる。

高齢者の交通事故の減少が図られる。

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

時刻表及びバスの概要や利用方法を記載した様式を、運行区域住民を対象に配布している。(今金町)

4. 地域公共交通 確保維持 事業により運行を確保・維持 する運行系統の概要及び 運送予定者
・地域公共交通 確保維持 改善事業費補助金交付 要綱「表1」を添付。
5. 地域公共交通 確保維持 事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額
・運行経費から国庫補助金額及び営業収入を差し引いた差額分を、今金町から運行事業者 へ補助する。(令和3年度補助金8,000千円、令和4年度補助金9,026千円)
6. 2. の目標・効果の評 価手法及び測定方法
・毎月の乗車 績を把握し、評 価を実施 している。
7. 別表1の補助対象事業の基準ホただし書に基づき、協議会 が平日1日当たりの 運行回 数が3回 以上で足りると認めた系統の概要 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
8. 別表1の補助対象事業の基準二に基づき、協議会 が「広域行政圏の中心市 町村 に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市 町村の一覧 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施 主体、定量的な効果目標、実施時 期及 びその他特記事項 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
10. 地域公共交通 確保維持 改善事業を行う地域の概要 【地域内フィーダー系統のみ】
・地域公共交通 確保維持 改善事業費補助金交付 要綱「表5」を添付。
11. 車両の取得に係る目的・必要性 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式 車両購入費国庫補助金を受けよ うとする場合のみ】
該当なし
12. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式 車両購入費国庫補助金を受けよ うとする場合のみ】
(1) 事業の目標
該当なし
(2) 事業の効果
該当なし
13. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者又は地方公共団体、要する費 用の総額、負担者とその負担額 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式 車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし

14. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策） 【公有民営方式 車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
車両の代替による費用削減等の内容 該当なし 代替車両を活用した利用促進策 該当なし
15. 貨客混載の導入に係る目的・必要性 【貨客混載 導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし
16. 貨客混載の導入に係る定量的な目標・効果 【貨客混載 導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
(1) 事業の目標
該当なし
(2) 事業の効果
該当なし
17. 貨客混載の導入に係る計画の概要、要する費用の総額、内訳、負担者及び負担額 【貨客混載 導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし
18. 協議会の開催状況と主な議論
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25年 4月～令和 4年 6月 前年度以前の申請計画に議載のため省略 ・令和 4年 7月 13日令和 4年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会 役員の選出、収支決算及び収支予算案の承認、計画における施策の協議など ・令和 4年 11月 11日令和 4年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会 今金町地域公共交通計画（素案）の提示説明、事業評価の承認 ・令和 4年 12月 2日今金町地域公共交通計画（案）に対する意見照会 今金町地域公共交通計画（案）に対する意見質問の有無 ・令和 5年 1月 17日令和 4年度第 回 協議会 部会 鈴岡・神丘地区での患者バスからデマンドバスへの移行について（町保健福祉課） ・令和 5年 1月 20日令和 4年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会（書面開催） 今金町地域公共交通計画の承認 ・令和 5年 2月 9日令和 4年度第 回 協議会 部会 地域交通支援事業（道単補助）について（道庁・檜山振興局） ・令和 5年 3月 28日令和 4年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会（書面開催） 事業評価に対する二次評価結果の報告等 ・令和 5年 6月 9日令和 5年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会（書面開催） 収支決算及び収支予算案の承認、本計画の承認 ・令和 5年 10月 4日令和 5年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会 役員の選出、実証運行について ・令和 6年 1月 15日令和 5年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会（書面開催） 実証運行開始の報告、事業評価の承認、本計画の変更について ・令和 6年 2月 16日令和 5年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会（書面開催） 実証運行実績報告、本格運行実施に伴う承認、バスターミナル一体化について ・令和 6年 2月 16日令和 5年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会 部会（書面開催） 本格運行実施に伴う利用料金の設定について ・令和 6年 3月 8日令和 5年度第 回 今金町地域公共交通活性化協議会（書面開催） 今金町地域公共交通計画の変更、本計画の変更について

19. 利用者等の意見の反映状況

- ・平成 24年度に町独自で実施した今金町地域交通 サービス導入調査において、各地区(13地区)住民聞き取り調査、各地区代表及び民生委員等 30名でのワークショップを開催し、地域住民の交通課題及びニーズの把握を行い、それをベースとした報告書を作成した。
- ・平成 25年度には上記報告書をもとに八束・白石地区を対象エリアとして 9月・2月に実証調査運行を実施した。実施後にアンケート等を行い、課題把握を行った。これらのデータをもとに協議会で検討を経て、平成 26年 10月から八束・白石地区での本格運行を開始した。
- ・平成 26年度には 9月・2月に金原・豊田地区、日進地区で実証調査運行を実施し、実施前後に当該地区の民生委員にも協力を得てアンケートや聞き取りを行ったほか、八束・白石地区では利用者から運行事業者へ日常的に届く声に基づいて運行事業者においても聞き取りを行っていただき、平成 27年 4月から運行時刻の変更などを行った。その後協議会での検討を経て、平成 27年 10月から金原・豊田地区、日進地区でも本格運行を開始し、日進地区においては実証調査運行時と地区住民の状況が変わったことなどを地区の集会所等に聞き取りした。
- ・平成 27年度には 9月・2月に田代・稲穂地区で実証調査運行を行い、それぞれ実施前に利用見込者に対し説明や聞き取りを行うほか、2月には当該地区住民を対象にアンケートを行った。その後協議会での検討を経て、平成 28年 10月から同地区で本格運行を開始した。
- ・平成 29年 4月から、利用者より聴取した意見に基づいて協議会において検討し、時刻表のレイアウトを改正した。
- ・平成 30年 4月から、電話の他 F A Xでの予約受付を開始した。また、F A X予約様式を作成し、老人クラブなど団体での受付も可能とした。
- ・平成 30年度にはかねてより利用者から意見のあった市街地内での乗降について検討を行い、9月・2月に八束・白石地区の下車エリア(市街地)内での乗車を可能とした実証調査を実施し、令和元年 7月から本格導入した。
- ・令和 3年 9/10~ 9/24の間に行った町民ニーズ把握調査の結果より、予約バスルンるん号の運行を認めている割合は回答 936票のうち約 7割であり、ルンるん号の不便な点として、『バスの運行エリアがわからない 使い方がわからない』など回答があったため、対象地区に対して時刻表を全戸配布することで周知を行っている。
- ・令和 6年 1月から上地区(美利河~光台)及び西部地区(神丘・鈴岡)で実証運行を行うにあたり、対象地区である上地区(花石地区・榎地区・住吉地区)及び西部地区(神丘・鈴岡)にて住民説明会を開催した。その後協議会での検討を経て、同年 4月から同地区で本格運行を開始する。

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住所) 瀬棚郡今金町字 48番地 1
 (所属) 今金町まちづくり推進課企画政策グループ
 (氏名) 主事補 松永 真翔
 (電話) 0137-82-0111 (内線133)
 (e-mail) imk-kikakushinko@town.imakane.lg.jp

注意：本様式はあくまで参考であり、補助要綱の要件を満たすものであれば、この様式によらずとも差し支えありません。実際の計画作成に当たっては補助要綱等を踏まえ作成をお願いいたします。

各議案項目について、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画を作成している場合には、当該計画から該当部分を転記したり、別添計画節のとおり、等として引用したりすることも可能です。(ただし、上記2.3.については、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画に定める目標、当該目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項との整合性を図るようして下さい。また、地域公共交通計画全体として、協議会における協議が整った上で提出される必要があります。)

該当のない項目は削除せず、「該当なし」と記載して下さい。

表1 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者(地域内フィーダー系統)

令和6年度

市区町村	運送予定者名	運行系統名等 (申請番号)	運行系統			系統 キロ程	計画 運行 日数	計画 運行 回数	利便 増進 特別 措置	運送 継続 特別 措置	地域内フィーダー系統の基準適合 (別表7・別表9・別表10)			
			起点	経由地 営業区域	終点						運行態様の別	基準ハで該 当する要件 (別表7・9)	補助対象地域間幹線 系統等と接続の確保	基準ホで該当 する要件 (別表7のみ)
今金町	有限会社 東ハイヤー	(1) 八束白石地区線		今金町		往 km 復 km	296 日	830.0 回			区域運行	①	瀬棚線が起点となるバス停が共有であるとともに、乗り継ぎにも適したダイヤ設定とする。(今金停留所)	③
		(2) 金原豊田地区線		今金町		往 km 復 km	296 日	523.0 回			区域運行	①	瀬棚線が起点となるバス停が共有であるとともに、乗り継ぎにも適したダイヤ設定とする。(今金停留所)	③
		(3) 田代稲穂地区線		今金町		往 km 復 km	297 日	399.0 回			区域運行	①	瀬棚線が起点となるバス停が共有であるとともに、乗り継ぎにも適したダイヤ設定とする。(今金停留所)	③
		(4) 美利河地区線		今金町		往 km 復 km	103 日	64.0 回			区域運行	①	瀬棚線が起点となるバス停が共有であるとともに、乗り継ぎにも適したダイヤ設定とする。(今金停留所)	①
		(5) 神丘鈴岡地区線		今金町		往 km 復 km	124 日	77.0 回			区域運行	①	瀬棚線が起点となるバス停が共有であるとともに、乗り継ぎにも適したダイヤ設定とする。(今金停留所)	①

運行回数・サービス提供時間算定表④

運行系統		計画運行日数 B		103.0		実績運行日数 F		64.0		*1 運行回数は、1運行を1回としてカウントする。 (往、復、循環各1回)												
美利河地区線		計画運行回数 (い) E		64.0		実績運行回数 (ろ) J				*2 天災欄は、運休のうちやむを得ない理由のもの												
						運休回数 (い)-(ろ)=(は)		64.0														
						やむを得ない運休回数 (に) I																
						サービス提供時間(リ) 0				運行割合 (ろ+に) / (い) = (ほ)												
年月	曜日区分	片道・循環回数 A	計画			実績					備考 (調整、増便、運休、補助対象外となった理由等)											
			運行日数 B	運行回数 A×B=C	調整後の運行回数 調整% D C×D=E	運行日数 F	運行回数*1 増便 G 運休(-) H 天災*2 I C+G+H= J			サービス提供時間 実運行時間 K 待機時間 L 回送時間 M 予約時間 N K+L+M+N= O												
6年 7月	全日 火～金	往復	1	18	36.0	30.0%	11.0															
		復	1																			
		往復																				
		復																				
		往復																				
小計			18	36.0	11.0																	
6年 8月	全日 火～金	往復	1	18	36.0	30.0%	11.0															
		復	1																			
		往復																				
		復																				
		往復																				
小計			18	36.0	11.0																	
6年 9月	全日 火～金	往復	1	16	32.0	30.0%	10.0															
		復	1																			
		往復																				
		復																				
		往復																				
小計			16	32.0	10.0																	
合計				103	206.0		64.0															

運行回数・サービス提供時間算定表⑤

運行系統		計画運行日数 B		124.0		実績運行日数 F		77.0		運休回数 (い)-(ろ)=(は)		77.0		*1 運行回数は、1運行を1回としてカウントする。 (往、復、循環各1回)																										
神丘鈴岡地区線		計画運行回数 (い) E		77.0		実績運行回数 (ろ) J				やむを得ない運休回数 (に) I				*2 天災欄は、運休のうちやむを得ない理由のもの																										
		サービス提供時間(り) 0				運行割合 (ろ+に) / (い) = (ほ)																																		
年月	曜日 区分	片道・循環 回数 A	計 画			実 績									備 考 (調整、増便、運休、補助 対象外となった理由等)																									
			運行日数 B	運行回数 A×B=C	調整後の運行回数 調整% D	C×D=E	運行日数 F	運行回数*1			サービス提供時間																													
							増便 G	運休 (-) H	天災*2 I	C+G+H= J	実運行時間 K	待機時間 L	回送時間 M	予約時間 N	K+L+M+N= O																									
6年 4月	全日 月～金	往	1	21	42.0	30.0%	13.0				時間																													
		復	1														時間 分 計																							
		往																																						
		復																																						
		往																																						
		復																																						
小 計				21	42.0	30.0%	13.0																																	
6年 5月	全日 月～金	往	1	21	42.0	30.0%	13.0				時間																													
		復	1														時間 分 計																							
		往																																						
		復																																						
		往																																						
		復																																						
小 計				21	42.0	30.0%	13.0																																	
6年 6月	全日 月～金	往	1	20	40.0	30.0%	12.0				時間																													
		復	1														時間 分 計																							
		往																																						
		復																																						
		往																																						
		復																																						
小 計				20	40.0	30.0%	12.0																																	

